

平成16年 3月28日(月) 午前6:58 第1子 長男 出産 3400g

今思えば、このノートにたどりつくまで 当たり前だけれど、10ヶ月という月日が流れていた。昨年の祇園祭の花嫁行列、長年、医学専門だった私に、誘いもあり、花嫁姿なんて親にいつかは見せたいと、出来事かわからない、25歳の記念に♡と思い参加した。その時すでに生理がおくれていて、お腹の中に小さな命が痛っていたのだ。下腹部がシクシク痛むのも、もしかして遅れている生理が来りからなのだろう。帯が少しきついなと思う。なんて妊娠説を否定できない私の心は、ちょっと不安定だったかもしれない。いえ、もし妊娠していたら、何があっても産んであげようとは思っていた...

それから3日後、市販の妊娠検査薬の判定は陽性。腹を産んで2人で育てよう!と、言ってくれた。そして私は、流行りにおくれ子となく、できちゃった!? 作っちゃった!? 結婚の道を進むことになった。お互いの両親への面識(は序は当っているのだろうか!?)もないところからのスタート。ドタバタな妊娠初期だった。つわりがはじまる頃には、両親へのあいさつも済んで終婚式の準備へと、妊娠中期・安定期に入って式をあげ、赤ちゃんを待つ家庭が出来た。私は実家のある田島町へ戻ってきた。親友が中嶋助産院で3人の子を無事出産して、話をよく聞いていた。仕事上、病院での出産~~経験~~を私のためにしていた私は、迷うことなく康乃先生にまかすことにした。お産は何もしないのが一番"ととても意味深い言葉だった。私は病院で手をくわえつくさず、あけ、病院でのお産なのに、仮死状態などで生まれてくる赤ちゃん達を仕事でつねに見てきた。NICUへつれていられ、吸引チューブをのどの奥までつっこまれ、酸素をかみかみ与えられ、自分がしていたことが、赤ちゃんに果たしてやさしい行為だったのか? ましてや、ひと様の子と云、その時、その子にとって必要は行為をしていたとして、私は赤ちゃんという人間を、人として扱うことができていたのだろうか... 里帰りをしてから1か月の間、先生からビデオや本を貸していただき、読んだ! 読んだ!... 今まで集中して読書にあけくほるなんてことが、一度もなかった私を母はめずらしそうに見ていた。助産師の免許が欲しい、と少し思ったが、二か月の助産入学のための勉強が必要である。第1のカギで、私はあきらめた。でも、里帰りして、理想的な産婆さんに出会えたことで、楽しいお産、素敵なお産が絶対に出来ることを確信し、私の環境の恵まれすぎていることに一人で見入った。田島に中嶋助産院があった。康乃先生が住んでいたことを神様に感謝した。

AM2時

予定日を4日すぎた夜中、トイレに起きた。おしりだけではない量が出た気がした。が、気のせいかなと思い、様子を見た。2時間後、やはりトイレに起きた。膣からチロツと流水出た感触あり、トイレでみると出血。量も少しだけ。これが痔瘻(おしり)かあるかなどと思いつた朝まで寝た。寝ながらでも、ズキズキ腹が痛むのを時々感じ、これから何かが始まるという胸騒ぎがあった。産前を前と生理のように出血量りの何かが出つており、ナプキンを愛していた。産前夜、産前先生にTEL。おしりがありました!と報告する。おしりしたからお風呂もいじり、ふつうに生活していいからね! 声をきかせて安心する。PM4時頃、産前夜から陣痛?らしき腹痛で起き、時計を見た。5〜6分間隔で、9分間隔の痛み。これは陣痛だ!と気付いたのがPM5時。産前先生にTEL。出血も続いていることを伝え、子宮は1.5cm、子宮口は1.5cm、子宮口は閉じているから、泊まる用意して下す。一度診ておきましょう。とのこと。PM9時半、中島助産院につく。すぐ内診してもらい、おしり! これ石炭水してるわね? 先生の声がある。4ヶ月!?! まじですか? 私のバカな頭の記憶を呼び起す。思い当たる。AM2時のトイレだ! おしりは気のせいではいけないから。一心、産前先生の私。自分の体のことになると、そんな資格もあてはまらないので、もっと驚いた。それは子宮口1.5cm... だ!?! 気が遠くなると、朝方〜午前中のお産になりそうとのこと。陣痛は時間と共にドンドンくる。涙がくる度、産前先生が腰を叩いて、呼吸を誘導してくれ。私は子宮口に「開けがま」状態で、広がれ〜広がれ〜と言いつつ、おしりを叩いてくれた。そして赤いおしりも、もう少しまつて! 今ひろげている戸付だ! から! と心の中で語りかける。痛みの間隔は、いい感じで来て、AM5時をまわると、先生が「おしりからだからね!」とハチミツト、おしりのベネチカを作ってくれた。甘党の私には、と、とてもおいしい。又ハチミツト、おしりから。合間合間で、本格的に痛みを耐えるのが辛くなってきた。いよいよ涙はすごいパワーだった。生まれてくる命のエネルギーそのものだ。そして他に例えるなら、便意。外は明るくなり、素晴らしい青空の広がる日。AM6時58分、男の子が生まれた。初めての対面の前に、元気のいい一声を聞いて、安堵感と嬉しさで涙が出た。その頃、おしり様は東京から二軒先の向かうため、東武線の中。早朝6時過ぎで、まわって来ていたけれど、立ち合いの間に合間合間から残念がっていた。7時のおしり場面、立ち合いはして欲しかったけれど、見られていたら... と考えると、初めてのことで、痛みを予測もつかず、どうにでも生じてくれ〜状態のおしり、天の目に触れなくて良かった〜と思う。次に子供を授けたら、家族でお産ができるといいな。2回目なら、少しは余裕があるのではないかな!

ながながと 9/24に書いて 文も手とあっていたし。 二、最近 写るべくに書いてない
 ので 漢字があらがっていき。 文章かに欠けてます。 初めての出産、私の生涯の忘れ
 られたくないことになりました。 分娩の時のことを思い出して スヤスヤと眠る 誰の子
 ではない、私と夫の子をみる。 今では (産後4日目) 涙が止まりません。
 陣痛に耐えきれず、途中 本当に死にそうだった。 くいけそうだった私を 助けたとき
 誰か、寝床に 着てくれていた 康平先生、 本当にありがとうございました。
 勝太が生まれる直前、 うぶ高にトによく登場されている 千ヨシさんが来てくれ、 母が来てくれ、
 ああ少しのどろの パワーをつけてくれて ありがとうございます。 千ヨシさんは 初対面
 だったにも関わらず、 顔を見ただけで すごく安心しました。 何でかな? 不思議。
 あのときかに、 先生から、「パートナーの千ヨシよ!」と紹介され「あうわさはかかおね
 ようしくお願いします」 などと、 おりと 冷静に、 自分を思い出す。 今思えば、 私の
 お産は、 大げさなだけで、 余裕のあるお産だったのかと うれしい。
 私に似ず、 髪の色も ぶさぶさ、 真、 黒い髪で 生まれてきた 勝太。 狭くて 暗い産道
 よく頑張ってくれて 出てきてくれました。 ありがとう。

お産後のケアも、 家族のように 温く、 人間と人間のつながり、 ~~手と手~~
 を 深く感じる事ができました。

毎日の処置(消毒)、 清拭、 母乳マッサージ。 私はどきかの イスチに いる様な
 気持ちでした。 リラクステできる お部屋に 子供と 2人。 おたのしみ にか
 流れていく。 一方で 幸せな 産褥ライフ。 実家と いえど、 家に 帰りたくない
 です。 食事の献立、 バランスがとれていて、 みなさん 絶賛するとあり 私も 感激
 でした。

次の子が 授かる様な事が あれど、 また こちらに お世話になりました と思っ
 康平先生、 千ヨシさん、 健康で 若く、 これから 頑張ってください。

田島に 帰ってきた時は、 勝太をつれて 遊びに来る。
 5日間、 本当に ありがとうございました。

H16. 4. 1. 東京都墨田区
 丸本